



## 寛政の改革とフランス革命

徳川宗家十八代当主・静岡商工会議所最高顧問 徳川恒孝つねたか



天明飢饉之図(部分、福島県会津美里町教育委員会所蔵)。会津地方では、天明3年(1783)の飢饉がひどく、たくさんの方が餓死しました。

應永三年  
安永三年

世界の歴史に重大な影響を与

えた「フランス革命」が勃発したのは一七八九年。その前年には八代將軍・吉宗公の孫の松平定信が將軍補佐となり「寛政の改革」を断行します。この二つの出来事は、地球的な天候異変によつて引き起こされた厳しい食料難によつて起こりました。結果は、日本とフランスでは随分違った形になりました。

当時の記録「武江年表」等を見ると、気象を含めて地球が若干異常になっていることがわかります。

「安永三年(一七七四)この冬寒気強く両国川凍り、浅草川、利根川凍りて舟の往来絶えたり。駿河は温国にして氷は六、七十年見し人無かりしに、今年は御城外水閉じたり」

「天明二年(一七八二)七月十四日夜・十五日朝大地震。相州大山・小田原はわけて甚だし。八月六日

津波あり。江戸に疱瘡流行」

「天明三年(一七八三)二月二日大地震」。七月六日以降の浅間山の大噴火と六月八日以降のアイスランドのラキ山の大噴火による粉塵が成層圏に数年止まって北半球の気温を下げ、「夏より秋、長雨・冷気。奥州筋大飢饉」。ロンドンに大寒波。

「天明四年(一七八四)諸国飢餓。人多く死す。奥州最も甚だしく餓死するもの津軽八万七千余、南部六万四千人に及ぶ」。ロンドンに再び大寒波。

この気象の変動に対して、日本では松平定信による「寛政の改革」を先頭に、各藩の藩政改革が全国的に進みました。各藩で中興の祖と呼ばれる名君が続出して、藩政を立て直すために冗費を押さえ、産業を起こし、官民一体となつて経済再建を行いました。

各地に藩校が発足し、武士の教育が厳しく行われるようになったのも、この時代です。

幕府は、諸大名に米の備蓄(囲い米)を命じ、米価が高騰すると米価を抑制、御払米を江戸中の搗き米屋に渡しました。また、石川島に人足寄場を作り、浮浪者・軽犯罪者を収容して大工・建具・塗り物・紙透きなどを教え、社会復帰させる制度を発足させました。

一方、フランスでは、川が凍り、水車が止まって小麦の製粉ができなくなり、パンがなくなり、市民は餓死か大規模の一揆を起こすかを迫られました。その結果がフランス革命です。自由・平等・博愛の旗印は、その後の世界に大きな思想的な影響を与えましたが、この革命による死者は二百万人と当時のフランスの人口の一割が犠牲になりました。